

## 平成24年度 第5回経営学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

日 時：平成24年9月20日(木曜日) 午後6時20分～9時30分

場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

出席者：大塚晴之委員長、佐々木利廣副委員長(ネット参加)、安田英土委員、佐藤修委員、日置慎治委員(ネット参加)、岩井千明委員  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

### 議事概要

#### 1. 資料④「経営学教育における学士力の考察について」の本文の検討

経営学教育の必要性を訴えるためには、そもそも経営学とは何か、企業の存在意義とは何かという根源的な定義を行う必要がある。そのために以下のような議論を行いながら、本文文章を検討の上加筆修正を行った。

- 経営学は、組織の経済的・社会的役割の双方を考える必要がある。
- 企業等組織の効率性の追求と社会の持続的発展に貢献することを両立しなければならない。
- 内部資源と外部環境の両方を考える必要がある。
- 経営学教育は、経営学の役割を果たすことが出来る人材の育成を目指さなければならない。
- 今回の検討範囲は学士力の考察であるから、社会経験が比較的乏しい学生を対象とするよう、範囲を限定すべきである。

#### 2. 資料④「経営学教育における学士力の考察について」の到達目標説明文章の検討

何のために4つの到達目標を学生に認識させるのか理由を明確に述べる必要がある。そのために以下のような議論を行いながら、到達目標の説明文を再構成した。

- 到達目標1では企業・組織活動の本質を学生に理解させなければならない。それは企業の存在意義そのものである。
- 到達目標1ではステークホルダーとの利害調整と法や倫理の順守が如何に重要であるかを学生に認識させる。
- 到達目標2ではまず企業の目標を学生に理解させる。また、経営資源にどのようなものがあるかも理解させる。
- 到達目標2では経営資源間の相互作用、経営資源が企業の目標を達成するための仕組みを理解させる。企業活動は個々の活動というよりも全体像を包括的に認識させる必要がある。

- 到達目標 3 では社会経験が多くない学生を対象としているので、既存経営理論の理解を目指すべきである。
- 到達目標 3 では習得した経営理論を用いて実際の組織行動の特徴が把握できれば良い。
- 到達目標 3 では客観データの把握とその記述も含まれるべきである。
- 到達目標 4 は到達目標 1, 2, 3 を統合したものと位置づけるべきである。問題発見と解決能力を習得させることが目標である。
- 到達目標 4 で全ての学生に革新的な解決案の提案を求めるのは困難であろう。そのような姿勢を身につけさせるところまでが現実的である。
- 到達目標 4 では提案のためのプレゼンテーション能力も含める必要がある。

### 3. 説明用図表の検討

本文並びに到達目標の内容を視覚的に訴えるための図表の検討を行った。

- 資料④の 4 つの到達目標の関係を説明したピラミッド図はこのまま使用する。
- 資料②.1 の授業の仕組みを描いた学びの場のプラットフォームの図はこのまま使用する。
- 資料②.2 の授業の仕組みおよび授業に ICT を活用したシナリオの図は、ややシステム構成中心の記述となって内容が伝わりにくいので、資料②.1 の図を参考に修正を行う。

### 4. 今後について

- 資料②.2 の図の修正をし、メールで内容を検討する。
- 今年度は今回の委員会が最終回である。

以上